

関東信越税理士会熊谷支部支部長賞

これからの社会と税

熊谷市立大幡中学校 三年 小林 恭子

『少子・高齢化』

みなさんは当然どこかでこの言葉を耳にしたことがあると思います。この言葉のとおり、現在の日本では「高齢化」や「少子化」が進んでいます。こういった理由で日本の経済社会は大きく変化してきていて、少子・高齢化の進展だけでなく、家族構成や個人の働き方も変わってきているのです。これらの変化は、これからの日本の社会や税のあり方を考えていくうえでとても重要なことです。では、少子・高齢化と税金は、どのような関係があるのでしょうか。

少子・高齢化社会が日本の危機であるということを言い出したのは、政界や官界や財界等の指導的立場にいる人々です。政治経済の分野において指導的立場にある人々が、少子・高齢化社会の到来を憂える理由は、まず、少子化については子どもの数が少なくなると、将来働くことのできる人間が今よりも少なくなるからです。高齢化については人間が長生きして高齢者が増えると、国が払わなければならない年金が増え、働く人が少なくなるので年金の元になる税金や保険料が減り、それで働く人の負担が増え、国の財政が困る...ということなのです。

私は社会の指導的立場にある人々は、国民に対してより良い未来が来ることを約束し、今は苦しくても将来に希望がもてるようにするのが務めのはずなのではないかと思います。彼らは高齢者は金がかかるけど役に立たないから不用で、労働力として有用で従順な若者だけが必要と言っているのです。それは大いに間違っていると思います。高齢者は私達に生きていくうえでの大切なことをたくさん教えてくれます。高齢者がいてこそ私達なのです。

そのためには、年金や介護費などに必要な税金が増えていくと予想されます。税金が足りなくなってしまう前に、今からしっかりと用意をしていき、すぐに対応できるように税金の使い方などについてみんなが考えていく必要があると思います。

埼玉県では、“税金は早く納めると楽だ！納められないときだって相談すると楽だ！”をキャッチフレーズとした「県税らくだキャンペーン」というのをやっているそうです。このキャンペーンをとおして、納税者の早期納付の協力を得ているそうです。税を納めて明るい社会を築いていきましょう！！